

保育の思想と歴史的変遷^{へんせん}

1 出題の傾向

保育原理の試験問題全 20 問のうち、毎年 3～5 問、このジャンルから出題されています。出題形式は、主に国内外の教育思想家の○×問題と穴埋めです。年によっては、有名な教育思想家の著作を引用し、作者や関係の深い用語を問うような問題が出題されることもあります。著作権の関係から、公式HPに掲載されている過去問をはじめ、各出版社の過去問題集には記載されません。問題集を解いていて、「著作権の関係により公表できません」とあるのが、これに当たります。

ただし、著作が引用までされて問われるのは、保育士試験の超重要人物のみですので、問題を解くことができないからといって心配する必要はありません。日本の教育思想家なら倉橋惣三か城戸幡太郎、外国の思想家ならルソーかモンテッソーリです。その他の人物も、教育・保育の現場にいる人であれば、知っておくべき重要人物ばかりです。人物名とキーワードを覚えていけば、確実に得点できますので、しっかりと覚えておきましょう。

以下の表は、直近数年分の保育原理の試験問題に出題された教育思想家を、外国と日本に分けて登場頻度の高い順にまとめたものです。外国の教育思想家では、フレーベルが、特に多いことが分かりますね。日本の教育思想家では、倉橋惣三がよく出題されるほか、野口幽香、橋詰良一らも、主に選択肢の一つとしてよく登場します。本章では、よく登場する人物に絞り、解説していきます。

〈外国の教育思想家〉

出題回数	人物名
7回	フレーベル
4回	ルソー、シュタイナー
3回	モンテッソーリ、オーエン、デューイ
2回	コメニウス、ペスタロッチ、ハウ、エリクソン
1回	ヒル、マクミラン、ロック、エレン・ケイ、ピアジェ他

〈日本の教育思想家〉

出題回数	人物名
6回	倉橋惣三、野口幽香、橋詰良一
5回	赤沢鍾美
4回	東基吉
3回	城戸幡太郎
2回	坂元彦太郎、徳永恕、石井十次、鈴木三重吉、西条八十、土川五郎、
1回	松野クララ、小林宗作、竹久夢二、北原白秋、宮沢賢治、山田耕作、関信三他

2 外国の保育の思想と歴史的変遷^{へんせん}

(1) フレーベル

フリードリヒ・フレーベルは、18～19 世紀のドイツで活躍した教育者です。世界初の幼稚園（キンダーガルテン）を創始したことや、教育玩具「恩物」を開発したことで有名です。主著は、『人間の教育』、『幼稚園教育学』、『母の歌と愛撫の歌』です。

(2) ルソー

ジャン・ジャック・ルソーは、18 世紀のフランスを代表する思想家です。著書『エミール』にて、子どもは小さな大人であるという当時の子ども観に一石を投じ、子どもは大人とは違った固有の存在なのだと主張したことから「子どもの発見者」と呼ばれています。同著の冒頭の一節、「創造主の手を出るときは、すべてのものが善であるが、ひとの手に移されるとすべてのものが悪くなってしまう」という言葉からも分かる通り、知識の詰め込みではなく、子ども本来の自然な姿の重要性を説きました。さらに、教育について、「自然か人間か事物によってあたえられる」とし、特に幼少期にあつては、自然による教育（私たちの能力や身体器官の内部的発展）を重視するべきであるとした教育観は、「消極教育」と呼ばれています。主著は、『エミール』、『人間不平等起源論』です。

(3) シュタイナー

ルドルフ・シュタイナーは、19～20 世紀にかけて、オーストリアやドイツで活躍した哲学者・神秘思想家です。ドイツのシュトゥットガルトに、自由ヴァルドルフ学校を創始したことで有名です。独自の思想に基づく教育は、シュタイナー教育と呼ばれ、オイリュトミーやにじみ絵などの芸術実践で知られています。

(4) モンテッソーリ

マリア・モンテッソーリは、19～20 世紀にかけて活躍したイタリア初の女性医師です。同時に世界的な教育者としても知られています。

知的障害児を対象とした治療知見から感覚教育の重要性を説き、その教育法を健常児にも応用すべく、1907 年、ローマのスラム街に「子どもの家」を創始しました。敏感期（ある一定の行為や事柄に特別に敏感な感受性を持つ

時期)という考え方や、独自の教具（モンテッソーリ教具）で知られ、その教育法は世界各国に普及しています。主著は『**子どもの発見**』です。

(5) オーエン

ロバート・オーエンは、18～19 世紀の**イギリス**で活躍した実業家です。

悪行は、無知な悪い境遇の被造物であるとし、自身の工場内に**性格形成学院**を創設しました。主著は、『新社会観』など。

(6) デューイ

ジョン・デューイは、19～20 世紀の**アメリカ**で活躍した哲学者です。**プラグマティズム**を代表する哲学者として知られ、シカゴに**実験学校**（シカゴ大学付属実験学校）を創設しました。主著は『**学校と社会**』です。